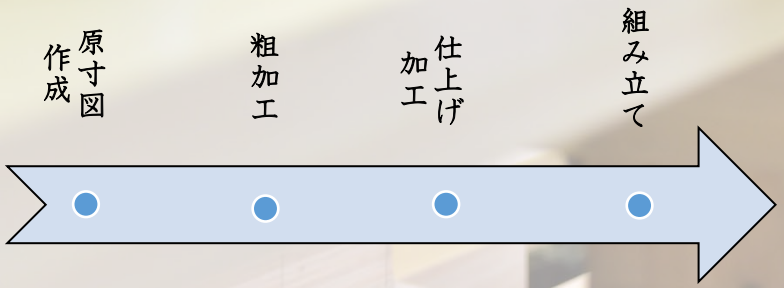
# 「第一次大極殿院東楼復原整備工事」を支える職人の方々の紹介

## ～宮大工編～

# 伝統技能の紹介

## 宮大工の工程




## 宮大工とは

宮大工とは社寺などの日本の伝統的な木造建築を取り扱う大工を指します。宮大工の歴史は長く、昔から変わらない技法が現代まで受け継がれ、その技術が東楼復原整備工事にも活用されています。

槍鉋（やりがんな）

台鉋と同様に木材の仕上げに使われる伝統的な道具。引いて使う台鉋と異なり、刃が両方あるので押しても引いても使うことができる。

台鉋（だいかんな）

鉋の中でも代表的な道具。木材の表面を仕上げる過程で使われる。使用目的によって大小様々な種類がある。

# 最後の仕上げは宮大工の手

第一次大極殿院東楼復原整備工事（以下東楼）の木工事では宮大工によって伝統技能を用いた復原工事が進められています。その中でも木材の表面仕上げには槍鉋（やりがんな）が使われています。木材の表面を平らでなめらかに出来る通常の台鉋に比べて、なめらかな仕上げでありながら、不規則な削り跡が残った味わいのある仕上げになります。

現場に搬入した木を大まかな形に削る「荒取り」の工程は機械加工で行われていますが、最後は全て宮大工達の手によって一本一本、木材の表面が仕上げられています。なお東楼では伝統技能継承の為、最初の荒取りから仕上げまで職人の手で仕上げられた柱があります。

横斧（ちょうな）

柱などの加工に使われる伝統的な道具。復原工事では、八角形の柱の角を削り六十四角形に加工するために使われる。

宮大工の道に進み始めた1年目の北さん。東楼では材料加工を担当しています。1年目から平城宮跡の復原工事に携わっている北さんには、宮大工の魅力や苦労、東楼に対する思いを語ってもらいました。

瀧川寺社建築

# 北（きた） 春翔（はると）さん

経験年数1年

## 自分で作り上げていくことが魅力

中学１年生の時に、近所にあった寺社・お城はどのような人によって組み立てられるのかが気になりました。その時、祖父からもらった本の中で木材を自分の手で加工し、組み立てていく宮大工を知り興味を持ちました。その後、伝統建築を学べる高校を卒業し、卒業生がいる瀧川寺社建築に就職しました。実際に足を踏み入れてみて、やはり手加工が多く自分の手で作り上げていくことが宮大工の魅力だと思いました。

## 初めての仕事は鉋掛（かんな）け

初めての仕事は鉋掛（かんな）け（台鉋（だいがんな））です。鉋掛けは高校でも学び、何度か経験したことがありました。しかし、今まで経験してきたものとは材の大きさや量が違ったので、思った通りの作業ができませんでした。最初はどれだけ作業しても鉋くずが全く出ませんでしたが、経験ある先輩達に積極的に教えていただけたこともあり、少しずつですがきれいな鉋くずが出るようになりました。

## 自分も復原工事に携われる

東楼では、台鉋とは別に槍鉋（やりがんな）という今まで経験したことのない道具で加工をしています。特殊な加工だけでなく、東楼の材は大きく、量も多いので、すごくやりがいを感じています。またこの会社で復原工事を手掛けていることは知っていたので、自分も復原工事に携われることが本当に嬉しいです。

棟梁の姿を小さな頃から見てきた棟梁の瀧川さん。今まで興福寺中根堂といった大きな事業に携わってきました。東楼では全体調整を中心に原寸作成、加工、組み立てを担当しています。瀧川さんには宮大工の魅力、苦労、東楼に対する思いを語ってもらいました。

瀧川寺社建築

# 瀧川（たきがわ）　眞幸（まさゆき）さん

経験年数　２６年

## 関係者と建物を作り上げていくことが魅力

あらゆる関係者と対話しながら木材を、そして建物を作り上げていくことが宮大工の魅力です。例えば東楼では、今までにない長さの柱を使用しています。それに加えて、柱は石の上に立たせるのではなく、地面の中に埋め込むという今まで経験のない作りです。この作りは柱の底が見えないので高さの管理がとても難しい。そのため東楼では事前に文化財専門の技術者といった方々と協議して納め方を決めています。高さの管理を含め、総合的な立場で物事を見るということはプレッシャーでもあり、やりがいでもあります。

## 常に何手先も考えておく

若い人に指導する立場として、どこまで教えるべきか考えさせられます。時には自分で考え作業することも大切だからです。私が若い時、先輩が新築の木造の原寸図（実物大で描いた図面）作成、墨だし（組立ての目印となる線をつける作業）を私が担当していた時は、口では何も教えてくれませんでした。そのため先輩が作成したものを写す練習をして納まりを学んでいました。

今は私が若かった頃と比べて、新築の木造に携われることが少ない。技術を繋ぐためにも、数少ない案件の中で若い職人一人一人成長できる環境にしていかなければなりません。職人の個性を見て、何を任せるか、どこまで教えるべきか、常に何手先も考え指導することを意識しています。

## 大規模な事業を実感

今まで神社やお寺とたくさんの工事に携わってきましたが、文化財専門の技術者がいる機会は少なく、自分達でどう納めるべきかを考え施工してきました。東楼では文化財専門の技術者が工事に参加し、どの選択肢が一番良いか、時間をかけてつくり上げていきます。関係者が多く、大規模な事業に携われているということを実感します。

# 復原工事を支える職人達

| 会社名 | フリガナ<br>氏名 |
|---|---|
| (株)瀧川寺社建築 | タキガワ　マサユキ<br>瀧川　眞幸 |
| (株)瀧川寺社建築 | イシカワ　ヒデイツ<br>石川　英乙 |
| (株)瀧川寺社建築 | ヤスナガ　ケイゴ<br>安永　慶吾 |
| (株)瀧川寺社建築 | アンドウ　リョウキ<br>安東　良記 |
| (株)瀧川寺社建築 | ハマダ　イッセイ<br>濵田　一世 |
| (株)瀧川寺社建築 | ヤマウラ　カズヒロ<br>山浦　和博 |
| (株)瀧川寺社建築 | カゲヤマ　ヒロアキ<br>景山　宏昭 |
| (株)瀧川寺社建築 | アベ　ケンセイ<br>安部　憲成 |
| (株)瀧川寺社建築 | ハツキ　ジョウ<br>羽月　星 |
| (株)瀧川寺社建築 | マエブチ　カイト<br>前淵　海斗 |
| (株)瀧川寺社建築 | キタ　ハルト<br>北　春翔 |
| (株)瀧川寺社建築 | タキガワ　キヨシ<br>瀧川　潔 |
| 木間工務店 | キマ　タクミ<br>木間　匠 |
| 木間工務店 | ミネシマ　ヒロシ<br>峯島　博 |

※　敬称略

「第一次大極殿院東楼復原整備工事」
は多くの職人に支えられて
整備されています。